

応急手当（おうきゅうてあて）



けがをしたとき、病院（びょういん）へ行（い）く前（まえ）に、その場（ば）ですぐにできる手当（てあて）があります。

今日（きょう）は、3つの手当（てあて）についてお話（はなし）します。

1つ目（め）は、血（ち）がでたときの手当（てあて）です。

血（ち）が出（で）ているところに、ガーゼやきれいなハンカチなどをあて、その上（うえ）にビニールの袋（ふくろ）などをあてます。

手（て）で強（つよ）く押（お）さえて、血（ち）を止（と）めます。

また、腕（うで）や手（て）から血（ち）が出（で）ているときは、手（て）を上（うえ）にあげると、出（で）る血（ち）の量（りょう）が少（すく）くなります。

2つ目（め）は、やけどをしたときの手当（てあて）です。

まず、やけどをしたところをきれいな水（みず）につけます。

やけどをしたところが十分（じゅうぶん）に冷（つめ）たくなったら、きれいな布（ぬの）で軽（かる）く包（つつ）みます。

そして、すぐに病院（びょういん）へ行（い）きます。

水（みず）ぶくれができたときは、つぶさないようにしましょう。

3つ目（め）は、骨（ほね）が折（お）れたときの手当（てあて）です。

骨（ほね）が折（お）れたところは、動（うご）かさないように気（き）をつけましょう。

骨（ほね）が折（お）れたところに木（き）の棒（ぼう）などを当（あ）てて、けがをしたところが動（うご）かないようにします。

木（き）の棒（ぼう）などが無い場合（ばあい）は、傘（かさ）などを使（つか）います。

突然（とつぜん）のケガにはあわてがちです。落（お）ち着（つ）いて行動（こうどう）できるように、正（ただ）しい応急手当（おうきゅうてあて）を身（み）につけましょう。